

令和6年度学校評価報告書

学校名	袖ヶ浦市立昭和小学校	記載責任者（職・氏名）	校長　・　鈴木　靖彦
【自己評価】 【学校関係者評価】	(A) 十分到達できた　　(B) ほぼ達成できた　　(C) あまり達成できていない　　(D) 達成できていない (A) 妥当である　　(B) ほぼ妥当である　　(C) 妥当であるとは思わない		

【1】学習指導				
	評価項目	自己評定	自己評定説明欄	関係者評定
1	学習に対して意欲が図られているか？	A	各学級、教科で学習問題へこだわり、児童一人ひとりが学びの必要感と当事者意識を感じ、主体的に学べるよう指導に臨んだ。 家庭学習については、引き続き「手引き」を活用し、保護者への理解も得ながら、家庭との連携を図っていく必要がある。	A
2	基礎基本の定着が図れているか？	B	アンケートで「授業がよく分かる」と答えた児童が9割を超えている一方で、困り感を抱えた児童への指導と支援のさらなる改善を課題と考え、基礎基本の定着に肯定的評価をした職員の割合は減少している。	
3	思考力・判断力が培われているか？	B	アンケートでは、「自分の考えをノートに書く」と答えた児童の割合が減少している。引き続き、ICT活用の充実と、児童の思考を揺さぶる発問の精選、問題解決的な学習の推進に努めていきたい。	
4	表現力・コミュニケーション能力が培われているか？	A	学校行事と教科学習との連携を図り、児童の意見交流や発表の場面が充実している。タブレットの活用や異学年交流の推進を図り、さらにアウトプットの場を創出し、表現することへの意欲を高めていきたい。	
5	読書好きの子どもの育成が図られていますか？	B	各教科での調べ学習においては、流通システムを使い、関連書籍を集め活用した。インターネットの利便性とともに、学校司書との連携で、紙媒体の本の魅力についても引き続き伝えていきたい。	
				職員の手引きにも児童からの評価が分かれるものもある。効果的で関心意欲を高める指導方法はどういったものなのかを校内で共有できると、児童の意欲を高める結果につながると思う。児童からの積極的な意見収集や職員同士での意見交換を図っていただきたい。 児童にとって楽しく学べる場所としての学校環境を整え、各家庭と一体となって児童の学習意欲を高めていただきたい。 基礎基本の定着を実感する職員の減少に危機感を感じる。児童アンケートの結果だけを鵜呑みにすることなく、引き続き危機感をもって対応いただきたい。 小学校時代に、基礎基本が身につけていることは大切で、「わかる」が次の学びに繋がると思う。 困り感を抱えた児童については、同一評価で悩まずとも良いと考える。 宿題が増えると、思考力・判断力を養う学習に充てる時間が短くなる懸念もある。宿題の量と内容の見直し等にも積極的に挑戦していただきたい。 活字離れが進み、文章で書くことが苦手な児童も多くなったと感じる。またインターネット等で受動的な学びが増える一方、能動的思考の機会が減少する懸念がある。自ら考え表現する力が育まれるような活動の工夫をお願いしたい。 アウトプットはとても重要だと思う。勉強・あそび・行事等さまざまな場面で「自分の考えを適切な言葉で伝える」ことの訓練が小学時代になされることを期待する。自己評定は妥当であるが、引き続き能力を高める取り組みを望む。 集会等で堂々と声を出し、発表する姿は好ましい。教室では声が小さい児童も見受けられるが、周りが意識を向け徐々に自信を持てるようになれば良いと思う。 調べる学習は、本当に素晴らしい。先生方の努力の賜物であり、保護者の協力なしでは成り立たないものと思う。優秀な作品を展示し学び、感動し、「今度は自分が」と思える環境作りをお願いしたい。 紙媒体の良さを今のうちに実感し、将来は電子でも紙でもどちらでも文字を読むことへの抵抗を少なく感じられるよう継続的に取り組んでいただきたい。

【2】生徒指導				
	評価項目	自己評定	自己評定説明欄	関係者評定
1	挨拶や返事がしっかりできる子に育っているか？	B	アンケートでは、保護者、児童ともに挨拶ができるという回答が非常に多い。引き続き、あらゆる場面で気持ちの良い挨拶ができるよう、職員が手本を示していきたい。	A
2	ルールやマナーを守る子に育っているか？	B	アンケートでは、9割を超える児童が肯定的な自己評価をしている。児童の成長をしっかり評価し、マナーも意識した行動ができるよう引き続き指導していく。	
3	思いやりのあるやさしい子に育っているか？	A	ペア交流等も充実し、学年を超え互いを思いやり協力する心が育まれている。いじめについては、積極的認知による早期解決を図るとともに、引き続き全職員が絶対に許さないという強い姿勢で対応していく。	
4	清掃活動を一生懸命できる子に育っているか？	B	清掃指導については、指導の徹底が必要である。職員も児童と共に活動し、場に応じた清掃の仕方も示しながら、一生懸命に取り組める児童を育成していきたい。	
5	協力する心が育っているか？	A	豊かな人間関係づくりに向け、さくらっち集会等の取り組みを通じ、児童の主体性を促す活動を進めている。引き続き、共感的、対話的な教育活動を推進していく。	
				来校時、児童から積極的に挨拶していただく。挨拶を当たり前にできるよう、これまで通り指導していただきたい。先生方が、気持ち良く挨拶をする姿は、児童の心に残る。思春期になり挨拶ができなくなることもあるが、それでも、気持ち良く挨拶してくれる大人の姿は、心の原風景に残ると思う。 自己評価が昨年と同一である。原因を明らかにし、対応策を考えて欲しい。 9割の児童が、肯定的な自己評価をしており、ルール・マナーを守らなければならないと考えていることがわかる。残り1割の児童の正直さも評価したい。 ルールを守ることはとても大切なことで、いけないことはいけないと言える環境を作り、みんなで何のためのルールなのかを理解することも大事である。 いじめは行う側の思いは浅く、受ける側の痛みを感じ取れないのだろう。それを自分がされたらどんな気持ちになるのか、考えることが必要。道徳の時間などで様々な場面や機会を取り上げていただきたい。 ペア交流は、相互の成長に良い影響を及ぼすと思う。手間もかかると思うが異年齢での交流の場を意図してつくる必要があると感じる。 掃除は、体や頭を使って面白く、達成感を得られる重要な作業だと思う。「窓割れ理論」は、真実のように思う。 雑巾やほうきを使わない家も多くなった。家庭での実践が減少する分学校で教えることが増えるがきれいな環境が心地よいということはずいぶん欲しい。 さくらっち集会等、児童の主体性を促す活動の推進はとても評価できる。互いをいたわる心、互いに助け合える心を育んでもらいたい。皆で同じ方向に向かう作業は、意見の相違も出るが、調整する力がつく。「自分の持っている力を出す」ことと「人がもっている力の凄さを知る」機会をたくさん作って欲しい。

【3】保健・安全管理				
	評価項目		自己評定説明欄	関係者評定
1	基本的生活習慣の定着が図れているか？	B	基本的生活習慣の定着には、家庭との連携が不可欠である。学校だけでなく保健だより、ホームページ等を活用し、児童の実態や発達段階に応じた課題についても発信していきたい。	A
2	体育の時間が充実しているか？	B	若年層に向けた校内での研修や、市教委による実技研修会を実施し、授業力の向上と授業改善を図った。児童の意欲を高める指導と評価の在り方についても引き続き追求していきたい。	
3	日常的な体力づくり、部活動の奨励を図っているか？	A	体育の生活化に重点を置き、引き続き自発的に身体を動かす意欲と態度を育てていきたい。向寒マラソンや縄跳びへの取り組みでは、委員会児童が中心となり、児童の主体的な取り組みを行った。	
4	実践的避難訓練、徹底した安全点検を行っているか？	A	「自らの命は自らが守る」という防災意識の醸成に向け、ワンポイント訓練を含め、月に1度、避難訓練を行った。施設の安全点検は、毎月点検者を変え実施し、危険箇所は7日以内の修繕を心掛けている。	
5	保護者や地域と連携して児童の安全が守れているか？	A	毎月の下校時刻を各自治会長を通じ地域に周知している。特別日課の早帰りの日には職員が学区の見回りを行っている。オレンジ帽子や子ども110番への協力で地域からは大きなお力添えをいただいている。	
				規則正しい生活の重要性を理解していない児童に対しての指導は、生活習慣の乱れによる弊害について紹介していくことがより効果的であると考えている。積極的に具体例を紹介することを心掛けていただきたい。 引き続き、学校と家庭の連携を密に行い、児童の成長を見守るとともにICTを活用し情報発信を進めて欲しい。 運動が苦手な児童に対して、参加意欲を高める工夫をしていただきたい。例えば、運動神経の良し悪しで結果がわるような競争を避けたり、競争するにしても同じレベルの集団で競わせる等、学習指導要領から外れない範囲で対応をお願いしたい。働き方改革も進み中で、児童の体力を育むことは苦労も多いだろう。地域で活動している団体に協力いただくのも一つの手だと思う。 昭和小児童の身体能力は優れていると感じる。個人差はあるが全体的に身体を動かそうという意欲を感じる。引き続き児童の運動への意欲を育てて欲しい。 自発的に身体を動かす意欲がわくような工夫が見られることは評価に値する。一方、意欲をそぐような内容となっていないかという観点で内容を見直すことも必要である。 月に1度の避難訓練は高頻度であり、いざという時の咄嗟の行動をとりやすい環境にあることや、危険箇所の点検者を複数人にアサインすることで、偏った見方による点検とらない等、防災意識の高さがうかがえて評価に値する。 また、施設管理において、破損箇所の修繕を7日以内に行うと決めて実行しているところが素晴らしい。 通学路以外の範囲も含めて、早帰りに限らず、不定期で見回りを行っていただけると安心できる。職員だけで難しい場合は、警察や自治体、PTA、ボランティア等も最大限活用できるよう努めていただきたい。 地域一体となり、安全・安心な昭和地区と言えるよう協力していきたい。 地域への下校時刻の周知もなされている。自己評価は妥当と考える。

【4】その他				
	評価項目		自己評定説明欄	関係者評定
1	各種便り（学校、学年、保健等）やホームページにより学校の教育活動を発信し情報提供が図られているか？	A	ホームページは、学校の様子や児童の頑張りを見ていただけるよう、月10回以上の更新をしている。暴风雨や緊急を要する対応、不審者の情報などについては連絡メールを活用し、迅速な情報提供に努めた。	A
2	地域や博物館、図書館などと積極的に連携した活用を図っているか？	B	中央図書館では、2年生の国語科での作品掲示。郷土博物館では、3、6年生で社会科の教育課程に位置づけ体験活動を行っている。総合的な学習の時間には地域の方々をゲストティーチャーに招いている。	
3	職員のモラル向上やサービスの厳正は図られているか？	A	職員会議や打合せの際に、新聞記事等を使い不祥事の具体的な内容を確認したり、自己分析シートで職員が自らの行動を振り返りする等の研修を行った。	
				ホームページは、写真の掲載も多く、元気ではつらつとした表情の児童の様子がうかがえとても良い。 学校便りが発行された旨の連絡をメールや専用アプリで受け取っており、積極的な情報配信に努めている様子が伺える。また受領報告を行うことで一方方向の配信ではない点も評価に値する。 自身の作品が展示され色々な人の目に触れる機会は、児童の意欲向上にもつながる。今後も公共の場を積極的に活用して欲しい。また、ゲストティーチャーを招いての学習指導は、いつもの先生と違うことで、刺激を受け様々なことに興味関心をもってもらえることが期待できてとても良い取り組みと考える。 これからも地域と密に連携し学習の場を設けて欲しい。 学校を訪問すると、先生方の明るさに気づく。不祥事は、大河の一滴のようで実はその波紋は大きく広がる。一人ひとりの自覚が必要だとも思う。 報道記事の活用や自己分析シートによる振り返りや研修は評価できる。 自己評定説明欄の内容では不十分。サービスの厳正に向け、さらなる取り組みを。

【5】次年度の重点課題と具体的対応策について			
	次年度の重点課題	具体的な対応策等	学校関係者評価委員より
1	学力の向上を図る。	・主体的、対話的で深い学びを目指す授業改善を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・教師の指導力の向上と授業改善に努め、基礎・基本の定着を図る。	これまでのように、定期的な学力測定を実施し、児童に本人の学力を自覚させることで学力の維持向上に努めていただきたい。また、指導方法については外部からのアドバイスや校外研修への積極的な参加等で日々改善に努めていただきたい。デジタル社会はますます加速する。これに対応する先生方も大変だと思うがよろしく願います。
2	思いやりの気持ちを育てる。	・「いじめは絶対に許さない」という強い姿勢で全職員が指導に当たる。 ・特別の教科道徳を要し物事を多面的・多角的に捉え、児童の主体的な道徳性を養っていく。	他人を思いやる気持ちはとても大切。優しい心を持った子どもに育ててください。 いじめが原因で登校拒否や自死等、過去に発生した痛ましい事例の共有と、教師と児童との良好な関係による報告のしやすい雰囲気づくりをお願いしたい。 児童の言動で、「良いものは良い」、「悪いものは悪い」としっかりと伝えて欲しい。
3	健康・体力・精神力の育成を図る	・外遊びを奨励し、体育の生活化を図る。 ・児童の体力、健康面での実態を把握し、発達段階や系統性に配慮した正課時体育の充実を図る。	外遊びの奨励は、声掛けだけではなく、楽しみながら体を動かせるような仕掛けづくりに努めていただきたい。各個人の運動神経の良し悪しによらない内容の方が全員で楽しみながら取り組めるので工夫していただきたい。 伸び伸びと健やかな心と身体の成長が図れるように体育の生活化を図って欲しい。
4	不登校、登校しぶりの児童への対応、支援に努める。	・学級担任だけでなく、SCや養護教諭、市教委や専門家も含めたチーム体制を整えて対応する。 ・安心できる居場所づくりに努め、児童の些細な変化に迅速に対応できるよう家庭との連携も密に行う。	不登校には個々の事由があるが、それがわかるまでの時間、労力は大変だと思う。子どもが未来に向かって生きていくのにその支えはとてもありがたい。これからも個々にあった対応をお願いしたい。 担任、学校だけでなく、関連機関と連携し、「学校が楽しい」「みんなといろんなことをするのが楽しい」と思えるような環境を作っていたきたい。
5	安全、安心な環境づくりに努める。	・日常的な安全確認を徹底するとともに、毎月10日には複数の目での施設点検を行う。 ・危機管理マニュアルの随時見直しを行う。	施設も経年劣化が進んでいるので、皆の目で見えて危険な箇所は早めに処置し安全安心な学校を作って欲しい。定期的な点検内容については、自校だけでなく他校で発生したような不安全事故も参考にし都度見直しを行っていただきたい。 地域や保護者の皆様の協力も得つつ、引き続き児童の安全を第一に取り組んで欲しい。